

# 事務事業評価票 [市単独補助金]

平成 27 年度

担当課 農林水産課

基本事項	補助金(事業)名	水産振興協議会補助金				整理番号	1458
	根拠法令等	島原市農林水産業振興事業補助金交付要綱			実施を義務付ける規定		<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第5章 「農漁商觀」が融合した活力ある産業をつくる ▼	予算科目	6款3項2目	●継続	○新規	
	節 第2節 水産業の振興 ▼	区分	団体の運営費に対するもの ▼				
事業の概要等	補助金交付の対象(団体名等)	島原市水産振興協議会				実施期間	○昭和 ●平成 年度から ○昭和 ●平成 31 年度まで
	事業の背景及び概要(現状、課題)、または交付団体の活動目的、活動内容など	有明海の特性を生かした沿岸漁業の振興に必要な調査、研究等を行い、豊かで活力ある漁村の創出を目指し島原沿岸水産業の振興に寄与する。 <島原市の合併後、市内にある二つの漁業協同組合が一堂に会し、視察研修や各漁協ごとの取組みなどについて情報交換を行うなど市内の漁業や加工に関する情報共有及び連携を行い、地域の特性に応じた漁業の推進を図っている。> ■構成 島原漁協・有明漁協の正組合員が会員（一本釣・ノリ（アオサ）・ワカメ（コンブ）・刺網・底曳網・かご・タコ・青壯年部・女性部の各部会長、正組合員より監事3名、参与として農林水産課長、県南水産業普及指導センター所長が役員。）					
	目指す成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>潮位表の作成及び販売</li> <li>中間育成施設管理業務受託 ヒラメ（平成26年度実績） 5,000尾(77.3mm) 2箇月後放流→3,111尾(148.2mm) カサゴ（平成26年度実績） 3,000尾(84.5mm) 5箇月後放流→3,478尾(124.9mm)</li> <li>昆布品評会の開催（平成26年度）</li> <li>・産業まつり・がねまつり等での鮮魚、タコめし、ガネ味噌汁等の販売</li> <li>・先進地視察研修</li> <li>・浜掃除への参加</li> </ul>					
	補助金交付内容等 (積算基礎等)	島原市の水産振興策に関する協議会の開催 水産振興に関する研修会及び講習会の開催 各専門部の組織育成 海浜等清掃活動支援 水産物の地産地消の活動支援、各種イベントへの参加 その他水産振興事業への支援					
事業費等の推移	年度区分	23年度実績	24年度実績	25年度実績	26年度実績	27年度予算額	
	補助金交付額(千円)	1,000	1,000	900	900	810	
	① 団体等事業費(千円)	1,720	2,742	2,150	1,871	2,618	
	② 歳入内訳	175	171	164	156	152	
	前年度繰越金	870	1,567	901	697	764	
	市補助金	1,000	1,000	900	900	810	
	その他の助成金	242	242	242	242	242	
	その他雑収入	1,000	663	640	640	650	
次年度繰越金(②-①)	1,567	901	697	764	—		
26年度の当該団体等の事業費の主な内訳 (市補助金が充当されていると思われるものから順に記載) (単位:千円)							
項目		金額	項目		金額		
研修費		400					
会議費		67					
事業推進費		201					
活動費補助金		450					
図書印刷製本費ほか		753					
補助金の使途についての特記事項等	補助金の使途については、当協議会の目的である調査等を行うため、研修視察を行っている。 また、各専門部、特にワカメ（コンブ）部会では、コンブの品評会などに取り組み、品質の向上や販売の促進を図っており、併せて鮮魚販売も行うことで、市民へのPR活動も実施している。さらに、女性部への活動費を支出しており、女性部では産業まつり時に販売するたこめしのPR用シール作成や学習会の開催、海の環境をよくするためのEM团子用EM液づくり、有明がねまつり時ににおけるガネ味噌汁の販売などを行っている。						

## ◎1次評価(自己評価)

### ○視点別分析

視 点	現 状 分 析	説 明
① 助成事業の効果	<input checked="" type="radio"/> 意図した効果があがっている <input type="radio"/> ある程度効果がある。 <input type="radio"/> あまり効果がない	本協議会の設置により、合併が行われていない各漁協の持つ情報の交換が図られる。例えば、タコめしを始めた有明漁協へ島原漁協の女性部が出向き加工方法等を学び、産業まつりでの販売だけであったものが、協議会の研修で先進地を視察後、現在では事業化の検討を行うところまで来ている。また、島原漁協でのワカメ、コンブ等の販売が好調であることから有明漁協での養殖を考えている者が出てきている。
	<input type="radio"/> 分析できない <input type="radio"/> 事業効果は後年度	
② 市の関与の必要性	<input checked="" type="radio"/> 必要性は薄れていない <input type="radio"/> 少し薄れている <input type="radio"/> 薄れている <input type="radio"/> 不明 <input type="radio"/> 該当しない	協議会の設置の効果が具体的に表れつつある状況であるが、市内の水産振興の情報共有及び連携協議の場は引き続き必要であり、さらに市としても漁業者のやる気を起こすための視察研修の提案なども引き続き行う必要があり、今後も市の協力・指導が必要である。
③ 団体の事業内容や助成の在り方等の見直し必要性	<input checked="" type="radio"/> 見直しの必要はない <input type="radio"/> 検討の余地はある <input type="radio"/> 見直しの必要あり	平成25年度、平成27年度で補助金の見直しが既になされており、上記の事業効果が表れつつあること、市の関与の必要性があるなかでは見直しの必要はない。

### ○総合評価と今後の方向性

総 合 評 価	判 定	<input checked="" type="radio"/> A 継続(特段の見直しは行わない) B 見直しのうえで実施 <input type="radio"/> B1 事業規模の拡大 <input type="radio"/> B2 事業規模の縮小 <input type="radio"/> B3 事業内容の改善 <input type="radio"/> B4 その他の見直し <input type="radio"/> C 休止(隔年実施など)      → ( ) <input type="radio"/> D 廃止(終期の設定も含む)      → ( )
	判 定 理 由	今後も情報交換が図られ、お互いに刺激しあい地域の特性に応じた漁業の推進を図る場としたい。
今後の課題と見直しの方向性(総合評価判定がB1~B4の場合)	課 題 見 直 し の 方 向 性	

## ◎2次評価

判 定	B4見直しのうえで実施 ⇒ その他の見直し
備 考	一人当たりの会費(年間500円)は、現在の経済情勢から判断すると安すぎるのではないか。また、例年、市補助金額とほぼ同程度の繰越金が生じており、事業内容を再検証すべきと考える。

## ◎3次評価

判 定	
備 考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況(□)				
<input type="checkbox"/> 補助額の削減	<input type="checkbox"/> 補助額の増加	<input type="checkbox"/> 補助の休止若しくは廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	⇒ 予算措置額の増減 0千円
備考				

( 水産振興協議会補助金

)